

大会2日目 分科会

地域の連携・協働の 仕組みづくり

第1分科会

メディキット県民文化センター 演劇ホール

人・物・事を繋げて、大きな連携の輪に



【討議の視点】

- ・学校・家庭・地域・企業・関係団体等が一体となった教育環境づくりについて

【発表の概要】

発表1 大分県 藤田さん

- ・公民館と放課後児童クラブの連携など、福祉と社会教育がお互いの欠点を補い合い、利点を生かして連携することで、ネットワークの拡大や人材活用、生きがい創出などにも繋がった。

発表2 熊本県 伊東さん、小原さん

- ・各種団体のリーダーが集まる社会教育委員会は、様々な分野の情報収集が強みであり、学校支援の実態を調査し、学校や行政の組織づくり等の推進を提言した。



- ・歴史文化伝承館の開館や地域参加型学校行事への転換などは提言の成果である。

【討議の柱】

- ①社会教育委員としての取組を進めるために重要なキーパーソンについて
- ②社会教育委員の活動を進める基になる研究調査の取組について

【討議の概要】

- ・地域の方が学校に来て、子どもが地域に出て、繋がりを作るのが学社融合である。お互いを批判するのではなく、よいと思うことをやっていって、氷が溶けていくように進めるといいと思う。
- ・地域の繋がり・絆づくりが社会教育の原点であるが、連携により各団体の役割や責任が曖昧になってきているという課題も出ている。

【まとめ】

- 連携や絆づくりには人・物・事がカギとなる。
- 人：気付いた人、何とかしたい人が火をつけ、その火が集まり松明となる。
- 物：取組や情報などの小さな波も、まとめ、繋ぎ、集団となれば大きなうねりとなる。
- 事：単発なら誰でもできるが、続けるには大変な努力がいる。継続する仕組みをつくるのが大切である。
- 情熱をもって、小さくなった学校・家庭・地域の教育力の輪を、大きな輪にして欲しい。



※詳細は、宮崎県生涯学習課ホームページ「学び応援ネット」に掲載されています。